

平成 17 年度機器・分析技術研究会に参加して

技術センター 理学部等部門
機器・試料製作技術班 新谷 博志

1. はじめに

平成 16 年に開かれた、第 7 回企画調整委員会において、平成 18 年度機器・分析技術研究会を技術センター主催のもと、広島大学で開催することになりました。近年では、参加者が 200 人近くとなり、広島大学で開催される平成 18 年度機器・分析技術研究会も多くの参加者が見込まれます。佐賀大学で開かれた平成 16 年度機器・分析技術研究会においても運営、進行などの情報収集が行われました。その情報を踏まえ、円滑な運営、進行を行うための情報収集と次期開催大学（広島大学）のアナウンスのために参加した。



岩手大学工学部正門に「平成 18 年度機器・分析技術研究会」の看板が掲げられ、会場入口までは距離が短いので、迷うこともなかった。

2. 平成 17 年度機器・分析技術研究会

(1) 期間・場所

期間：平成 17 年 9 月 15 日・16 日

場所：岩手大学工学部 テクノホール

(2) 参加者等

全国の大学共同利用機関法人、国立大学法人及び国立高等専門学校機構に所属する技術職員参加者 216 名。（広島大学から 4 名参加）

(3) 研究会内容

分析技術及びその周辺技術等に関する内容の口頭発表 33 件（安全衛生に関するもの 9 件）、分析技術及びその周辺技術等に関する内容のポスター発表 40 件（安全衛生に関するもの 4 件）の発表が行われた。



会場入口にも立て看板が掲示されていた。



会場入口には、事前登録した人の名札があり、各自が名札を取って受付に進むようになっていた。



受付にて、プログラムや平成 17 年度機器・分析技術報告を受取り、口頭発表会場へと進んでいく。



受付の前には、次期開催校（広島大学）の案内ブースが設けられていた。



口頭発表会場では正面に発表用のスクリーン、その隣に公演時間を表示するスクリーンがあり、約 300 名程度着座できる会場であった。



開催にあたり平山健一岩手大学学長よりご挨拶と岩手大学における現状などお話しされました。



実行委員長



実行委員長の挨拶のあと、実行委員会事務局より会場案内、口頭発表について、ポスター発表について、技術情報交換会のご案内、アンケート記入のお願いなど Power Point を使って案内されたのち口頭発表に移った。



1 日目の口頭発表は発表 15 分質疑応答 5 分で 10 件の発表が行われた。



1 日目の口頭発表のあと、次期開催大学を代表して、岩谷技術統括が平成 18 年度機器・分析技術研究会の案内をされました。



その後、会場を移動してポスター発表が行われました。ポスター発表の時間は 40 分で活発に議論されていた。また、ポスター発表には賞が設けられており、気に入ったポスター発表に参加者が

投票し、技術情報交換会の場で表彰されていた。1 日目の発表及び討議はおおむねスケジュールどおりに進んでいた。



テクノホールから徒歩 5 分の岩手大学中央生協の会場に移動し、技術情報交換会が催された。



恒例となっている鏡割りなども執り行われ、盛会に催された。



2日目は8:45から23件の口頭発表が行われた。



安全衛生に関する口頭発表では、発表8分、質疑応答4分で9件の発表が行われ、全員発表後に安全衛生に関する総合討論が行われた。



最後に正路良孝実行委員長の挨拶で平成17年度機器・分析技術研究会を閉会した。

3. おわりに

このたび、機器・分析技術研究会に参加させて頂き次期開催大学として、アピール用に持っていた技術報告集、広大キャンパスマップなどすぐになくなり、機器・分析技術研究会への関心の大きさを感じた。

安全衛生に関する口頭発表では、300席の会場がほぼ満席となり法人化後の活動として、大変関心があることが窺えた。現状では巡視活動は、ほとんど技術職員が行っており、今後の取組みとして興味深い発表が多くあった。開催機関である岩手大学技術部職員が一致団結し、さまざまなアイデアを出し合い、苦勞を乗り越えた結果だと感じられた。

次期開催大学の利点を生かし、技術研究発表会（口頭発表、ポスター発表）や技術情報交換会の交流の機会を通じて、全国から参加された技術職員に、広島大学技術センター職員の活動をアピールする機会だと思った。

また、この研究会を運営・進行するにあたり、多くのスタッフの協力が必要であると感じた。